



研究だより

授業日：2017（平成29）年
9月21日（木）
発行者：教科研究担当 國廣

授業日 2017（平成29）年 9月21日（木）
単元名 「曲想を味わおう」「ようすをおもいうかべよう」

第6学年2組 第1学年1組

研究協議より（光井先生）

授業の視点	成 果	課 題 ←→	改 善 点
①	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価が子どもたちの中からたくさん出ていた。 助っ人の募集で友だち同士での思いやりがみえた。 学級の座席が有効 少数で歌うことができる雰囲気良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌う子と聞く子の差があった。 話し合いの中で楽譜の見方、読み方の差（知識の差）があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が参加できる手立て 音楽記号の根拠を明らかにしていく。
②	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見型の授業になっていた。 自分たちの思いをもつことで、始めと最後の歌声が変わった。 共通事項がキーワードとして授業の中に見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 成長の自覚化ができていなかった。 グループ内で歌って確認する活動がなかった。 客観的に聞く子がいるからこそ、意見がもてるが、ただきくだけになる子をつくらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 違いを明確にするために、録音をしておく。 曲全体の「山場」の指導 どう歌いたいのかの「理由」を深める。

研究協議より（栗田先生）

授業の視点	成 果	課 題 ←→	改 善 点
	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習形態をもつことで、自分の思いをもつことができるようになり、他グループの考えについても考えることができるようになっていた。 意見を出し合う中での他者を認める雰囲気【拍手、反応】 折り合いをつけた児童を即評価されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の際、聴きっぱなしになっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴いている子への指導とともに、全体でも歌う活動を入れる。
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの主体性がみえた授業だった。「歌ってみます」 音楽用語を使った授業になっていた。 子どもの経験と歌詞の様子を結びつけて歌うことができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年でも分かるような発問にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 短冊の例示を増やすことでイメージをもちやすくする。 イメージの動作化をさせる。 細かい発問をすることにより、歌詞の様子が深められ、歌い方の幅が広がるのではないか。



1年生から音楽用語を使って！



児童自ら「歌ってみます！」



児童だけでパート練習！

すばやくパートに分かれて、しっかり歌いきる6年生の姿！合わせる楽しさを感じていました。



他グループの意見全体の見える化【板書・ワークシート】

目指すべき音楽科授業とは、

「言われた通りに（歌う）のではなく、自分たちでつくる楽しさを感じさせる授業」
そのために…①つけたい力を明確にし、重点的に指導する項目を決めて手立てを考える。

②学習形態を工夫する。

③全員で授業について考え合うことが大切！

※模擬授業や事前授業などの打ち合わせの確認，指導案検討（担当部会，全体）の時間の確保，研究授業の本数を精選